

# 松 風

会報・第003号

## 会報立ちからの歩みをつたえる

8、風の松原の小鳥の観察 6:00~7:30  
 小鳥のさえずりにうっとり

五月十八日(土)、風の松原林内で「大人を対象にした」バードウオッチングが行われ、早朝にもかかわらず、一般、会員、合わせて四十名もの参加者に、資料が不足するほどだった。参加者は三班分かれ、約2kmのコースで小鳥を探したり、さえずりに耳を澄まして、キビタキ、ウグイス、シジュウカラなどを確認、多くの野鳥を育む風の松原の一面を学び合った。

9、モデルコースの整備 9:30~12:00

### 広葉樹の侵出状況を観察・在来巣箱の手入れ

六月一日(土)、昨年調査し設定された(大森稲荷神社のすぐ北側の道をまっすぐ港湾道路までの)モデルコースの整備と、林内で朽ちて落ち散乱している小鳥の巣箱回収作業に十九名が参加した。

モデルコースは東から西に植林された年代が樹幹や樹高で分りやすく、マナーの良い市民も利用しているせいかがゴミは少なく危険の感じられる障害物もほとんどなかったが、広葉樹(主にニセアカシア)の侵出が目立ち、「なんとかできないものだろうか」と考察しながらの作業となった。

◎ 案内人を目指した研修会 9:30~15:00

### 落合海岸林、日和山下コース

六月二十八日(金)、風の松原ガイドの必要性から、臨時の研修に十六名が参加、昨年調査し設定した日和山下コースと、落合海岸林で、ガイドの要点を収集した。

落合海岸林では、砂原から松林に変わっていく様子や(昨年3月米代西部森林管理署から発行「風に学んで」の防災林造成記録写真集が大変役に立つ)日本海中部地震の爪跡など、地理的人為的な歴史が説明しやすいコースになっている。

10、地帯区分試験地の研修 10:00~12:00

### 講師に米代西部森林管理署長の橋本佐内氏



4つのエリアの解説をする橋本氏

七月十八日(木)、試験的に四種類の植生に区分された地域の研修に、会員の他、東北電力能代火力発電所の遠藤幸雄所長、同所社員の海岸林保全グループまっぼつくりの会員、合わせて二十六名が参加、橋本氏が施行に至った経緯と狙い、4つのエリアの試験手法、モニタリングに三年、五年を想定し、じっくり経過を見ていくこと、などを解説された。

### ◎ 県有林間伐作業

#### 指導は農林事務所林務課長金沢千昭氏

七月十日(水)~八月九日(金)まで延べ日数六日、まっぼつくりの会も参加され、延べ人数六十八名で、ロケット実験場から六キロ南の樹齢十五・六年、樹高(4.5~6.5m)の県有林一ヘクタールの間伐が達成された。

この事業は、今年の計画にはなかったが、「安全な範囲で、実際に林に入って作業を行いたい」との会の思いが、事務局と県山本総合農林事務所との協議で実現した。

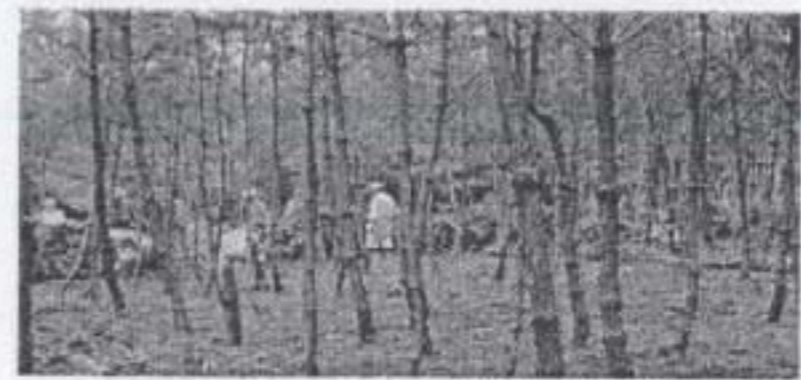
金沢課長は、県内の松くい虫の現状とその対策について説明され、被害拡大阻止に民間のマンパワーが不可欠とし「安全に、確実に、休憩を十分取りながら、松の手入れを」と指導された。



作業前



枝打ち



完了



チップ(7cm以上)と廃棄物に分類



### ◎ 樹木名札取り付け作業

9:00~12:00

八月十九日(月)、トリムランニングコースを中心に、会長、副会長、鷺尾会員で行われ、23種46枚の木札が付けられた。

### 11、風の松原植物観察会

#### 松と日光・小鳥

八月二十三日(金)、能代市子ども館のボランティアグループ「アルファクラブ」との合同観察会となり三十四名が参加、二班に分け、トリムランニングコースに渡辺会員、いこいの広場から大森稲荷神社までのコースに福司会員、がそれぞれ講師を務め、「松林の生態」を科学的に分析、日光が松の生育に及ぼす力の偉大さを学んだ。

アルファクラブのちびっ子たちには会員がマンツーマンでチームを編成、黒松をスケッチ、巨木松の観察、小鳥の水場、年輪調べ、クオドラット法による調査などで風の松原を科学した。